

●日本産魚類の差別的標準和名の改名案（もとの和名は原則として中坊編（2000）による；そうでない場合は、説明を加えた；改名済み1種を含む）

綱	目・亜目	科・亜科	属	種	新和名の説明・他	
Myxini メクラウナギ綱 →ヌタウナギ綱	Myxiniiformes メクラウナギ目 →ヌタウナギ目	Myxiniidae メクラウナギ科 →ヌタウナギ科	<i>Myxine</i> メクラウナギ属 →ホソヌタウナギ属	<i>M. garmani</i> メクラウナギ →ホソヌタウナギ	綱から科までの名称は既存名を適用。属・種の名称は <i>Eptatretus</i> ヌタウナギ属よりも体が細いことによる。なお、中坊編（2000）では本科魚類に別属として <i>Paramyxine</i> クロメクラウナギ属が含まれているが、Fernholm（1998）により <i>Myxine</i> の新参異名とされているので、ここではその見解に従った。	
				<i>M. paucidens</i> オキナメクラ →オキナホソヌタウナギ		
				<i>M. atami</i> クロメクラウナギ →クロヌタウナギ		
Chondrichthyes 軟骨魚綱	Carcharhiniiformes メジロザメ目	Pseudotriakidae オシザメ科 →チヒロザメ科	<i>Pseudotriakis</i> オシザメ属 →チヒロザメ属	<i>P. microdon</i> オシザメ →チヒロザメ	深海性のサメであることから、深い海を表すチヒロ（千尋）を採用。	
Osteichthyes 硬骨魚綱	Anguilliformes ウナギ目	Synbranchidae ホラアナゴ科 Ilyophinae メクラアナゴ亜科 →リュウキュウホラアナゴ亜科	<i>Dysomma</i> メクラアナゴ属 →アサバホラアナゴ属	<i>D. anguillare</i> メクラアナゴ →アサバホラアナゴ	亜科名は本亜科に <i>Ilyophis</i> リュウキュウホラアナゴ属を含むことによる。種名はホラアナゴ科魚類としては、比較的生息深度浅いことによる。	
				Cyematidae セムシウナギ科 →ヤバネウナギ科		<i>Cyema</i> ヤバネウナギ属
	Clupeiformes ニシン目	Clupeidae ニシン科	<i>Spratelloides</i> キビナゴ属	<i>S. atrofasciatus</i> バカジャコ →リュウキュウキビナゴ	本種は日本では沖縄県のみに分布することから。	
	Myctophiformes ハダカイワシ目	Myctophidae ハダカイワシ科	<i>Nannobranchium</i> トンガリハダカ属	<i>N. sp.1</i> テナシハダカ →ヒレナシトンガリハダカ	胸びれがないことから。	
	Ophidiiformes アシロ目	Bythitidae フサイタチウオ科	<i>Oligopus</i> セムシイタチウオ属 →セダカイタチウオ属	<i>O. robustus</i> セムシイタチウオ →セダカイタチウオ	他属に比較して体高が高いことから。	
	Lophiiformes アンコウ目 Antennarioidei イザリウオ亜目 →カエルアンコウ亜目	Antennariidae イザリウオ科 →カエルアンコウ科	<i>Antennarius</i> イザリウオ属 →カエルアンコウ属	<i>Antennatus</i> イザリウオモドキ属 →カエルアンコウモドキ属	<i>A. tuberosus</i> イザリウオモドキ →カエルアンコウモドキ	本亜目魚類の形態がカエルを連想させ、また英名がfrogfishであることから本科の基幹名としてカエルアンコウを採用。「ヒメヒラタイザリウオ」は瀬能・川本（2002）で提唱された。なお、改名案にはイザリウオ（漁る魚の意）も検討されたが、旧名を連想させない名称が適切であるとの意見を重視した。
				<i>A. flagellatus</i> ムチイザリウオ →ムチカエルアンコウ		
				<i>A. analis</i> ロケットイザリウオ →ロケットカエルアンコウ		
				<i>A. striatus</i> イザリウオ →カエルアンコウ		
				<i>A. hispidus</i> ボンボリイザリウオ →ボンボリカエルアンコウ		
<i>A. scriptissimus</i> ソウシイザリウオ →ソウシカエルアンコウ						
<i>A. camersoni</i> オオモンイザリウオ →オオモンカエルアンコウ						
<i>A. maculatus</i> クマドリイザリウオ →クマドリカエルアンコウ						
<i>A. pictus</i> イロイザリウオ →イロカエルアンコウ						
<i>A. coccineus</i> ウルマイザリウオ →ウルマカエルアンコウ						
<i>A. rosaceus</i> エナガイザリウオ →エナガカエルアンコウ						
<i>A. nummifer</i> ベニイザリウオ →ベニカエルアンコウ						
<i>A. dorehensis</i> カスリイザリウオ →カスリカエルアンコウ						
<i>A. randalli</i> ヒメヒラタイザリウオ →ヒメヒラタカエルアンコウ						
Melanocetidae クロアンコウ科	<i>Melanocetus</i> クロアンコウ属	<i>M. murrayi</i> セムシクロアンコウ →クロアンコウ	日本産本属魚類は本種のみであることから、属の既存和名を採用。			
Scorpaeniformes カサゴ目	Scorpaenidae フサカサゴ科	<i>Scorpaenopsis</i> オニカサゴ属	<i>S. diabolus</i> セムシカサゴ →ニライカサゴ	本村ほか（2004）で改名済み。		
			Triglidae ホウボウ科	<i>Chelidonichthys</i> ホウボウ属	<i>C. ischyurus</i> セツパリホウボウ →ツマリホウボウ	近縁種に比較して前後に短縮した体形をしていることから。
			Psychrolutidae ウラナイカジカ科	<i>Malacocottus</i> セツパリカジカ属 →コブシカジカ属	<i>M. gibber</i> セツパリカジカ →ミナミコブシカジカ	日本産本属2種のうちの他種 <i>M. zonurus</i> コブシカジカの名称を属名に採用。種名は <i>M. zonurus</i> よりも南方に分布することから。
Perciformes スズキ目	Gerreidae クロサギ科	<i>Gerres</i> クロサギ属	<i>G. erythrourus</i> セツパリサギ →セダカクロサギ	同属他種に比較して体高が高いことによる。		
			Zoarcidae ゲンゲ科	<i>Bilabria</i> ミツクチゲンゲ属 →ホソクチゲンゲ属	<i>B. ornata</i> ミツクチゲンゲ →ホソクチゲンゲ	近縁な <i>Petroschmidtia</i> アゴゲンゲ属にくらべて吻部が細いことから。
				<i>Lyoodapus</i> アシナシゲンゲ属 →オオクチノゲンゲ属	<i>L. microchir</i> アシナシゲンゲ →オオクチノゲンゲ	近縁属のノロゲンゲ類（ <i>Bothrocara</i> シロゲンゲ属）に比べて口が大きいことから。
				<i>Andriashevia</i> テナシゲンゲ属 →ヒレナシゲンゲ属	<i>A. aptera</i> テナシゲンゲ →ヒレナシゲンゲ	胸鰭を欠くことから。
Pleuronectiformes カレイ目	Bothidae ダルマガレイ科	<i>Neolaeps</i> セムシダルマガレイ属 →オオクチャリガレイ属	<i>N. microphthalmus</i> セムシダルマガレイ →オオクチャリガレイ	近縁属の <i>Laeps</i> ヤリガレイ属や <i>Japonolaeps</i> ヒナダルマガレイ属に比べて口が大きいことから。		

引用文献：

Fernholm, B. 1998. Hagfish systematics. Pages 33-44 in J. M. Jørgensen, J. P. Lomholt, R. E. Weber and H. Malte eds. The biology of hagfishes. Chapman & Hall, London.

本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: Scorpaenopsis) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51: 89-115.

中坊徹次編. 2000. 日本産魚類検索：全種の同定, 第2版. 東海大学出版会, 東京. lvi+1748 pp.

瀬能 宏・川本剛志. 2002. 日本から初記録のヒメヒラタイザリウオ (新称). I. O. P. Diving News, 13: 2-6.